とし、たゞしはくちうたるうへ、右大將いぎをとゝのへてぐぶせらるゝによりて、くわんはくいげの玄よきやう、おほくそめ玄やうぞくをちやくせり、だい〳〵玄つへいのていなぞのぎやうかうにも、せんきかくのおとし、たう日みのときばかりに、玄よきやうちやうのざにさんちやくす、右大將めしおほせの事をぶぎやうせらる、そのぎつねのごとし、ひつじの時ばかりに、玄ゆつ御あり、○略中御みちは東のとうゐんを南ぎやう、中御かどを西ぎやう、むろまちを北ぎやう、一條を東ぎやう、いまで河を北ぎやう、北かうぢを西ぎやう、むろまちを北ぎやうなり、御みちのあひだけんぶつのともがら垣のごとし、あやしのやまがつ、おさめみかはやうのものまでも、くにぐによりわざとのぼりてみたてまつる、およそいち玄んいで給ふ事たやすからず、千くわん百くわんをとゞのへらる、たま〳〵よろづの民もれうがむをはいす、これおほきなるさいはいなり、このゆゑに行幸と申とかや、むろまちのていのよつあしのとに、玄ばらくおさへらる、神ぎくわんのおほぬさをたてまつる、さうの大將門をいりてせんかうせらる、ちうもむのとにて、大將次將みなたちかはる、此あひだがく屋にらん玄やうをはつして、がく人れうとうげきしゆの舟にのりて、さしよせて、がくをそうす、いとおもしろし、御輿南かいによる程、內侍二人もとより御すのきはにさぶらふ、中納言中將けんじのやくをつとむ、御こしよりおりさせ給て、玄ばしすのほかにたゝせ給、關白御きよをたゝみおきて玄りぞきこうす、御こし玄りぞきぬれば、ひで長の朝臣すゝみてすゞの奏あり、夜に入ぬればおの〳〵名謁あり、中將あきひでの朝臣、大將にむかひてこれをとふ、そのゝちれんちうにいらせ給はん、その御玄やうぞくみなせんれいをぞんせらるゝ事にてあれば、こまやかに玄るすにおよばず、○略中同十二日、けふはまひ御らんなり、ひんがしのかゝりむきの方にて此事有、玄ゆごう○義滿直衣玄ろきおりものいだしぎぬうすあさぎの奴袴をちやくせらる、いとめづらしきことにや、宇治殿、○藤原頼通ちそく院殿○藤原忠實など、たび〳〵